

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
<p style="text-align: center;">「自分が輝く みんなも輝く」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分から進んで学び、経験や知識を活かしていく力を育てます。(知)</li> <li>○自分を大切に、人に優しくできる心を育てます。(徳)</li> <li>○自らの健康を見つめ、体力を高め、たくましく生きようとする態度を育てます。(体)</li> <li>○丸山台のまちを愛し、よりよい地域や社会に向けて自分の役割を果たそうとする態度を育てます。(公)</li> <li>○広い視野をもち、未来に向けてともに生きていく力を育てます。(開)</li> </ul>	<p>&lt;自分づくりに関する力&gt;</p>

### (2) 中期取組目標

中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども一人ひとりを大切に、「チーム丸山台」として全職員で活気と魅力ある学校づくりを目指します。</li> <li>・自分からめあてをもち、自分らしさを発揮しながら夢中になって問題解決する授業づくりに取り組みます。</li> <li>・異学年、異校種交流や地域との連携を大切にしながら、自尊感情や自己有用感を育み、コミュニケーション能力を高め、誰もが安心して豊かに生活できるようにします。</li> <li>・まちや社会で働く人との出会いや学びを通して、自分の将来への夢や希望をもって生きようとする態度を育てます。</li> <li>・『食』の学びを中心に、健やかな体をと豊かな心を育むとともに、広く社会に目を向け、共に活動する姿勢を育てます。</li> </ul>

### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">確かな学力</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">担当</td> <td style="text-align: center;">研究推進委員会</td> </tr> </table>	確かな学力	担当	研究推進委員会	<p>①子どもの学習状況の実態と学習状況調査の結果をもとに、各学年の重点課題を明確にし、共通理解を図り課題を克服し実な学力を着けるための、計画的な教科指導を行います。②単元構成、授業展開を工夫し、子どもが見通しをもって粘り強く問題解決に取り組み、自己の学習を振り返ることができるようにします。③子ども同士の学び合いの充実を図り、自分の考えや思いを表現し合い、学びを深めることができるようにします。</p>
確かな学力				
担当	研究推進委員会			

## 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

各学年・各教科の学力の実態は、横浜市の平均と比べると、全体的には概ね良好な結果となっている。様々な学習形態や多様な活動を通し、学習内容の定着を図ってきた成果が表れていると同時に、これからさらに育てていかなければならない部分も明らかになった。

基礎・基本的な力は、どの学年も良好な結果となっている。これは、日々の授業での振り返りを通じ、自分の学んだことを再認識することの積み重ねが、効果として表れていると考える。また、文や資料をもとに、自分の考えを表す力の伸びも見られた。日々の問題解決学習が成果となって表れているものと考えられる。

一方で、基礎的な知識を、与えられた条件の中で適切に活用することや、複数の知識や資料を結び付けて事実を導き出したり、新たに自らの考えを表したりすることに課題が見られた。知識や資料を相互に関連付けて深く理解したり、複数の情報・資料を精査し必要な内容を選び考えたりする力が育っていないと考えられる。また、これらのことを意識した単元の構成、授業づくりは課題があったといえよう。新学習指導要領のキーワードになっている「生きて働く知識技能の習得」、理解していることをどのように適切に使うかは、これからの本校の授業実践の中で、大きく求められていくところである。

### (2) 教科学習の状況

○国語科：全体的に横浜市の平均より上回っている。文章の内容を正しく理解する力は概ね備わっている。配当漢字の読みと書き、文法的な言葉の力や、文章の内容の理解だけでなく、目的に応じた適切な箇所を選び、活用して考えを持つことに課題がある。

○算数科：基礎的な知識は、市の平均と同等か上回っている。学年によって、作図の技能に課題が見られる。問題場面の条件に合わせ、知識を適切に用いたり関連付けたりして考える力に弱さが見られる。

○社会科：全体的に市の平均と同等か上回り、基礎的な知識が定着している。資料と知識を関連付けて考えを表すことや、問われていることに対し資料のどの部分に着目すべきか判断し活用する力に、課題が見られる。

○理科：観察や実験の技能と、それを通して分かることについて、表現する力は身につけている。しかし、種子のつくりや体内の器官の正式名称などの、基礎的な知識の理解が、伴っていない状況である。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体としては、市の平均と同等、または上回る結果が出ており、下回る教科でも、若干という数値である。これは、本校のこれまでの傾向と同じであり、一定の基礎・基本の力は身につけている状況である。

学習意識・生活意識調査においては、全学年・全教科とも、どの教科も大切であるという意識の割合が大きい。一方、授業が分かると答える割合は、市の平均と比較すると、本校において低い数値が出ている。大切さを感じる値が大きいことを考えると、これは、もっと確かな学びを身に付けたいという願いの表れであると考えられる。子どもの学習意欲をより大事にし、質の高い授業を行うことが私たちに求められている。

また、算数において、学習は普段の生活に役立つと思う、また役立たせたいという意識が、学年によって差異はあるものの、上の学年に行くほど、市の平均よりも低い数値となっている。本校は令和2年度より、算数科の重点研究を始める。知識理解とともに、生活場面の活用へのつながりを意識し、教科等横断的な視点で、学習の総合化を図れるような授業づくりを大切にしていきたい。